

ワークショップ

「古代文明の生成と経済的基盤 —西アジアとアンデス」

■日時 2014年1月25日(土) 13:00～18:45

■場所 東京大学総合研究博物館ミュージズホール

東京都文京区本郷7-3-1 東京大学本郷キャンパス内

【定員】50名(先着順、事前申込制)【参加費】無料

旧大陸における古代文明の発祥地として知られる西アジア、そこでは豊かな自然環境のもと、農耕や牧畜が成立し、都市も早くから登場しました。そしてその地における考古学的研究は、狩猟採集から農耕定住、余剰生産物の蓄積、そして巨大なモニュメントの建設へと、私たちが通常抱くような古代文明観を作り上げることに貢献してきました。一方で、南米アンデス文明における近年の研究からは、西アジアとは異なる文明形成過程が報告されています。今回のワークショップでは、両地域で長らく研究に携わってきた考古学者を招いて、最新の調査成果を報告してもらうとともに、従来の古代文明観が揺るぎないものなのかどうかを再検討し、両古代文明の特性について議論していきたいと思えます。

【プログラム】

13:00～13:30 趣旨説明

関 雄二 (国立民族学博物館)

13:30～14:30 「アンデス形成期における食性の変遷」

瀧上舞 (山形大学)・米田穰 (東京大学総合研究博物館)

14:30～15:30 「ラクダ家畜の起源と拡散：アンデスの牧畜の発達過程」

鶴澤和宏 (東亜大学)

15:30～15:45 休憩

15:45～16:45 「西アジア新石器時代の社会 —公共建築物の出現と農耕・牧畜—」

三宅裕 (筑波大学)

16:45～17:45 「メソポタミアにおける複雑社会の形成と展開」

下釜和也 (古代オリエント博物館)

17:45～18:45 総合討論

瀧上舞・鶴澤和宏・三宅宏・下釜和也・関雄二

【主催】

科学研究費補助金基盤研究(S)「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」(代表：関雄二)

【参加申込先 および 問い合わせ先】

国立民族学博物館 関研究室

TEL: 06-6878-8252

E-mail: sekiken@idc.minpaku.ac.jp



本郷キャンパスの「徳徳門」(かいとくもん)を入れて右手正面が博物館入口です